

## 河北新報社・仙台商工会議所と包括提携

—光輝く東北の地域力抽出を目指して—

### 河北新報社との連携に基本合意

五月二十日、東北学院大学と河北新報社との連携に関する基本合意書調印式が土樋キャンパスで行われた。当初調印式は四月七日を予定していたが、三月十一日に発生した震災のため延期されていた。

#### 地域力の向上を目指す

基本合意は、地域に立脚する教育機関と報道機関としての特性を生かした様々な活動を通じて、連携・協力して東北の「地域力」の向上をめざすことを目的としている。

調印式には、本学から星宮学長、柴田総務担当副学長、宮城広報部長、河北新報社からは一力社長、加藤営業本部副部長、相田経営室長兼教育プロジェクト事務局長ら関係者が出席した。

一力社長は「大学と新聞社、立場は違うが、我々には地域に根ざしながら社会に貢献しよう、地域の文化の振興に寄与しようという共通の目的がある。今後震災からの復興に向けて何が問題か、これからどのような方向に向かうのかを共に考えながら地域を支えていかななくてはならない。この時期に連携に合意し、調印する運びとなったことは大変意義深く重要なことであると責任の重さを痛感している」とあいさつした。

星宮学長は「今回の連携は、相互の資源の役割を効果的に結びつけることによって本学全体によい効果を及ぼすだけでなく、東北地方から光り輝く新たな価値が創造される

と考えている。今後はこれまでの本学の地域貢献の実績を自覚しつつ連携をさらに深めて、東北の復興を支え、さらに地域の方々に喜ばれる活動を進めていきたいと思う」と連携への期待を表した。

調印式終了後、河北新報社との意見交換を進めてきた柳井雅也学長室副室長（教養学部地域構想学科教授）は、「今回の大震災を契機として、東北における河北新報社、本学院の役割がますます重要になってきた。そうした意味ではこの連携を非常に力強い一群として育てていく必要がある。私たちもそうした心づもりで活動が続けていきたい」と抱負を語った。

本年度は「震災からの復興創世」を中心テーマに据えて連携事業を展開する。東北の復興をテーマにしたシンポジウムの開催（六月十八日／泉キャンパス）や、高い学力向上が期待できる NIE※を中高大で実施するなどの具体的な事業内容が示された。

※Newspaper in Education。新聞を教材として活用することにより、社会性豊かな青少年の育成や活字文化と民主主義社会の発展などを目的にしている。